

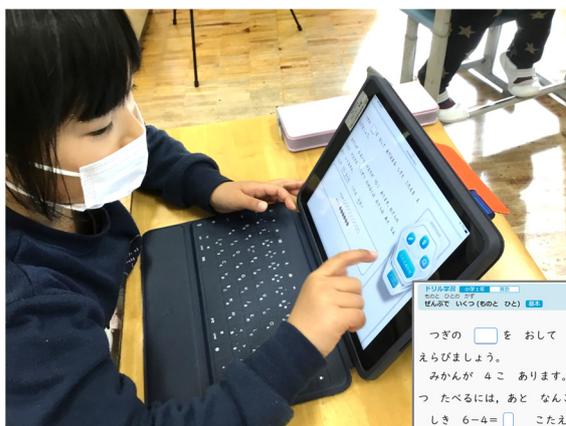


## 和歌山県 和歌山大学教育学部附属小学校

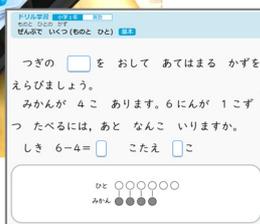
# 児童の多様な学び方を支援する ～ 学びを自己調整する力を育む ～

和歌山大学教育学部附属小では、eライブラリを知識の定着と児童が自分の学習を俯瞰して振り返る習慣づけに活用しています。先進的な授業とオンライン研究発表会で全国に活用例を発信する取組みをご紹介します。

## 問題を正しく読み取る工夫でドリルに取り組む



▲ 指でなぞりながら、ドリル学習に取り組む



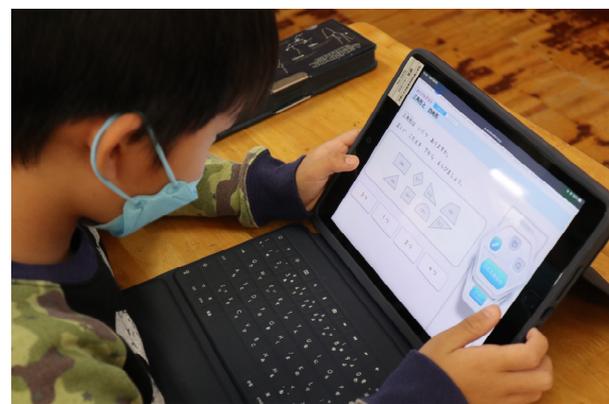
### 算数 1年：ものとひとつのかず

#### めあて 図に書いて考える

問題を正しく読みとることができるよう、普段から児童は問題文を声に出しながら読んだり、図を指でなぞったりしてドリル学習しています。

問題演習が始まると、eライブラリの学習に慣れている児童は「僕は学習メモに書こう!」と問題を正しく読み取るための学び方を自分で考えてドリルに取り組み始めました。

## 豊富なイラストに触れて、図形の感覚を豊かにする



▲ eライブラリで図形の特徴を確かめた後、協働学習支援ソフトを使って、作図の演習

### 算数 2年：三角形と四角形

#### めあて 三角形や四角形の特徴を確かめる

児童は、ドリルで様々な種類の図形を見ながら問題を解いていきます。図形の特徴や名称を隣同士で自然と確認しあっていました。その後、先生が準備した作図の問題に取り組みます。

図形と直角のイラストを見ながら繰り返し学習したことで、図形の特徴をとらえて作図することができました。

## インタビュー 子どもが柔軟に学び方を選べるように

eライブラリは、文章題や図を正しく読み取る習慣をつける場面や、イラストに触れる機会を増やす場面で学習させています。ドリル学習では学習メモとノートの「併用」、一コマの授業ではeライブラリと協働学習支援ソフトの「併用」というように、教材やソフトの良さを生かした場面を選んで授業を計画しています。

最近では、児童がそれぞれの良さに気づき、自分で最適な学び方を選んで学習しています。「先生、この課題はeライブラリで学習する!」「これは教科書で!」と児童が課題に応じて最適な学び方を選べるようICTを活用していきたいです。



1, 2学年 複式学級担当  
中西 大 先生

# クイズと解説教材で、「もっと詳しく知りたい！」を引き出す

【かくにん問題】  
下の各問に答えましょう。

1. ユニセフとは何という機関の略ですか。ア～エから1つ選びましょう。  
ア 国際連合 イ 国連児童基金  
ウ 非政府組織 エ 政府開発援助

答え

2. ユニセフが活動するための費用は、何によってまかなわれていますか。  
答え

3. ユニセフの活動について説明したものとして正しいものを、ア～エから1つ選びましょう。  
ア 戦争などで苦しんでいる子どもたちを支援しています。  
イ 戦争などで犠牲となった人々を支援しています。  
ウ 世界の平和を守り、各国が協力することを目的に活動しています。  
エ 世界の人の健康を守るために活動しています。

答え

4. 子どもが幸福に生きる権利を国際的に保障するための条約を何といいますか。  
答え

【ポイント】

1. ユニセフは国連児童基金の略で、国際連合の機関の一つです。

2. ユニセフの活動は世界各地の困難な状況にある子どもたちを支援するために活動しています。

3. 子どもの権利条約は子どもたちの幸福に生きる権利を国際的に保障するための条約が採択されました。

1. ユニセフ  
・ ユニセフ (UNICEF) は、国連児童基金の略です。  
・ 戦争や食料不足などで苦しんでいる子どもたちの支援を行うために、国際連合の機関の一つとして設立されました。

2. ユニセフの活動  
・ ユニセフは、世界各地で、困難な状況にある子どもたちを支援するために活動しています。  
・ 日本も、第二次世界大戦後に、ユニセフから食料援助を受けていました。

3. 世界中に基金をよびかけ、それをもとに、子どもたちに必要な食料や薬品、予防接種、学習用品の提供などの支援を行っています。

## 社会 6年：ユニセフの働き

冒頭、中岡先生は「ユニセフってなんだっけ？」とクイズを出します。児童は「わかっているつもりが、実は覚えていなかった」ということに気づき、すぐに解説教材で振り返ります。

クイズと解説教材で既習事項を整理することで、「もっと詳しく知りたい！」と調べ学習に対する意欲が高まっていました。

▲クイズ形式で  
一問一答の確認問題

▲わかりやすく  
まとめられた解説教材

# オンライン研究発表会でノウハウを共有する



▲教室からオンライン研究発表会を配信

全国の先生がICTを活用した授業を実践できるよう、毎年、研究発表会を開催しています。eライブラリを活用し始めたばかりの先生も、研究を進めてきた先生も、児童の多様な学び方を支援できるよう議論を交わしました。

「使ってみて『だめだ、あきらめよう』ではなく、教師からチャレンジしたい！」や「先生同士の情報共有が大事！」という先生からの声が上がりました。

## 児童がおすすめしてくれたドリル・解説教材

ていねいな いかたのものをひとつ えらびましょう。

ぼくは 一年生。

ぼくは 一年生だ。

ぼくは 一年生です。

▲小1 こくご ていねいないかた

ここに なるように つなぎあわせると、それぞれ 下のようになります。

(イ) (ウ) (オ) (カ)

(エ)

(イ) (ウ) (オ) (カ)

(エ)

▲小2 さんすう はこの形

すいとりに みずが いっぱい はいって います。その みずを なにも はいって いない ばつとに うつしたら ほんぶんまで はいりました。すいとりと ばつとは どちらに みずが おおく はいりますか。

▲小1 さんすう かさくらべ

みんなに すきな おやつを さいて、ひょうに かきました。この ひょうを グラフに あらわします。ドーナツの どこには ●を いくつ かけば よいですか。正しい こたえを 下から えらびましょう。

▲小2 さんすう ひょうとグラフ

「はこの形」のかいせつをよんだあと、じっさいにはこをつくったので、わかりやすかったです。

ドリルがたのしくて、きほんからちょうせんまでがんばりました！



# インタビュー 自分の学習を俯瞰して振り返る「省察性」を高めるために



6 学年担当  
中岡 正年 先生

eライブラリで学習すると、児童が「ここはできるようになったけど、ここはまだわからない」と省察することができます。教員が「自分で答えを確認することが大事だよ」と声をかけても、紙のドリルでは取り組むことが難しかった児童も、**即時採点のドリルとわかりやすい解説教材で自分の学習状況を俯瞰しやすくなりました。**

また、教員も担当学級がどの程度できていたのかを把握して、自分の授業を振り返りながら指導することができます。eライブラリの豊富な教材をさらに研究しながら、児童の「省察性」と「探究力」を育む授業を実践していきたいです。